



忠勇阿佐倉日記
第三編
伍

遠
AP3
15

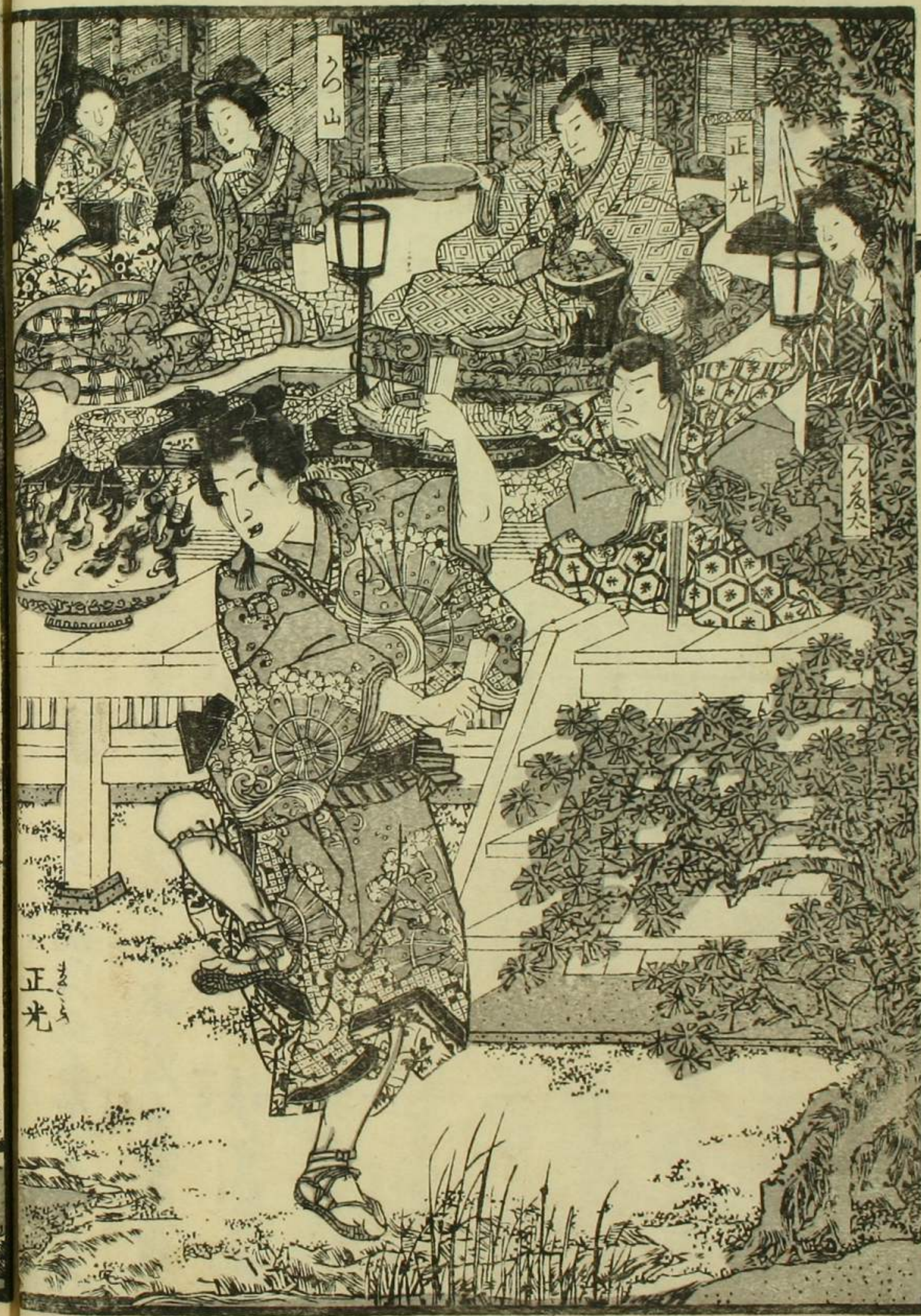
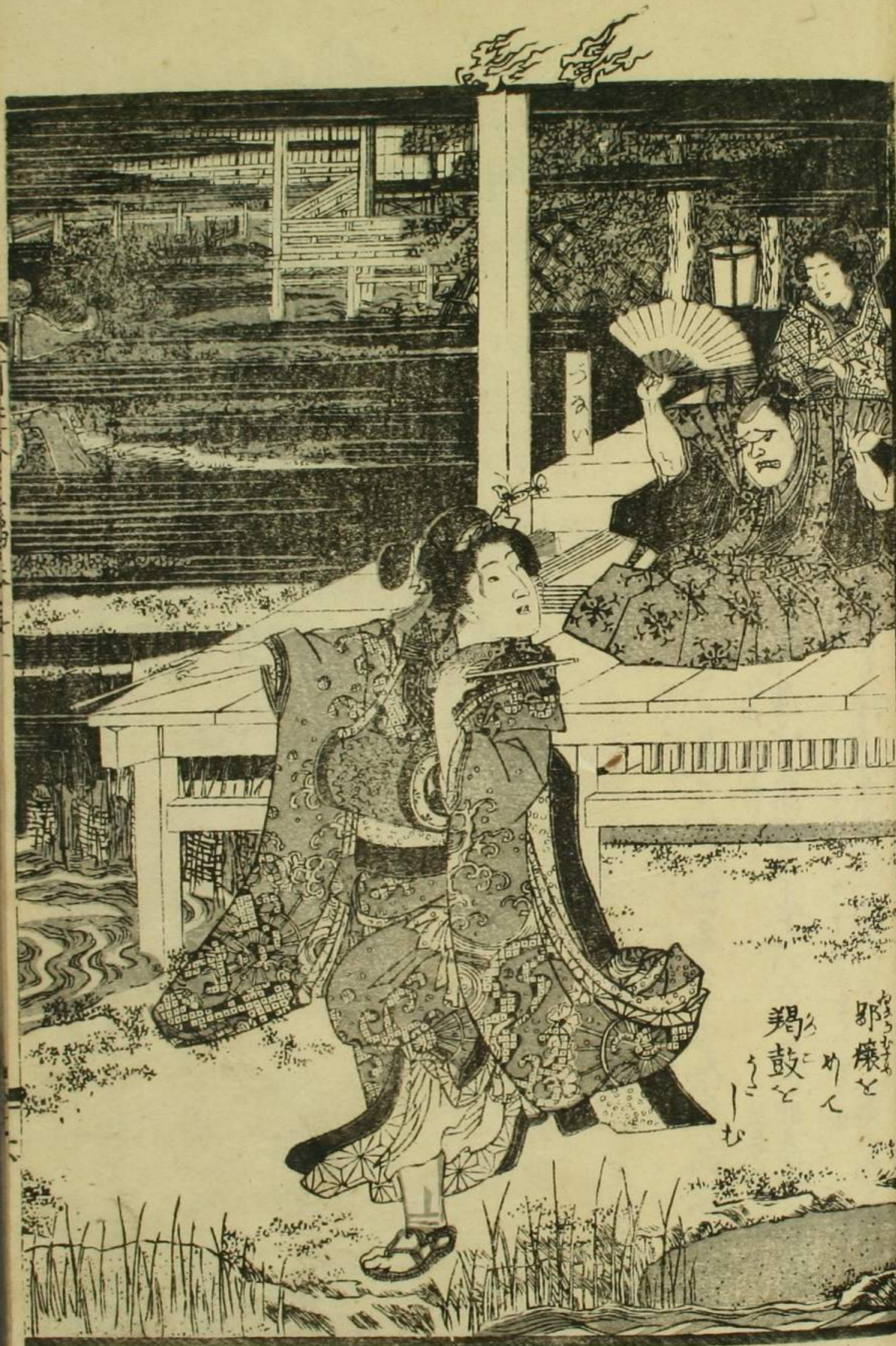


属ぐ如く。計の違ふ半するが故に。斤時も易きなるけれ。頭と疾め額と感定。
 とそのあとのこのことはおぼえて人心更にお徳あるごうか。勝間田の重三郎高須
 の虎次郎滝沢の六右衛門。是等の各商家ある世に村長の職お雇ひされ
 配下のお民へ大令と称へ長と教ひかく強うさせしめるあまで若様あるごうか。
 ごうか程お計らひあると心お憑て任せし。是迄運命を井邊五郎隠條あると知
 り。忽ちお小民共離散および十二にも。飯住お到らぬその罪重。と知
 らん。おのれは俗の官吏三個も同席あることを責その言新晴一と阿依
 念の郷と拂ひま家財盡く没収せざる。かの三人の縁でも必ひ餓け一本なれば
 然るゝ憂ある景勢もある。寒多しうて妻子と引俱に付来住に地で退く。情
 勢尾張の方よりさうぞお片とあらんと。今また斯の如くあらば。必ずやの十お近

つたう。所東西の有まうちお。吾もらと退むの家賊もお縣の有まうち人実ふ
うせい。いともあやこ。あやまらう。
苛政の虎狼より。從怖りそのめをさへ合はるありきとて。今公ありの上で
下と騒動して離散するもの日夜お忍びに同安と極す。知縣元よ中夜
べいう。ごころ。しゆ。ごろういんか。あせ。え。れ。よう。ざうちう。うま。そ
初以下三個の俱み自分先。ことして防ぎ難くとひ是不困て郷中の鼎沸
お異なりと。この紛はお決無賊犯。在と所をも様ねく式ひの民屋と放火を資
賊犯具と算ふやど然ハさせとて仕支等の竹陰をと替めて賊共を防ぐ
やど小賊も得おせうち揮ひ闘争の街とうる。その愚劇一おあるわ太南等ハ
商議倣い。五們一先花路へ登る。此趣と云上と抱頭以下の人数を集ひ不目お
まりて是でばあん足下等よくことあると名候と俟べ。とお縣兩個おひひ措け
逃るが如く出立民勢勇ましければいほど此程まで吾と刑をとり。吏婦が傍身と

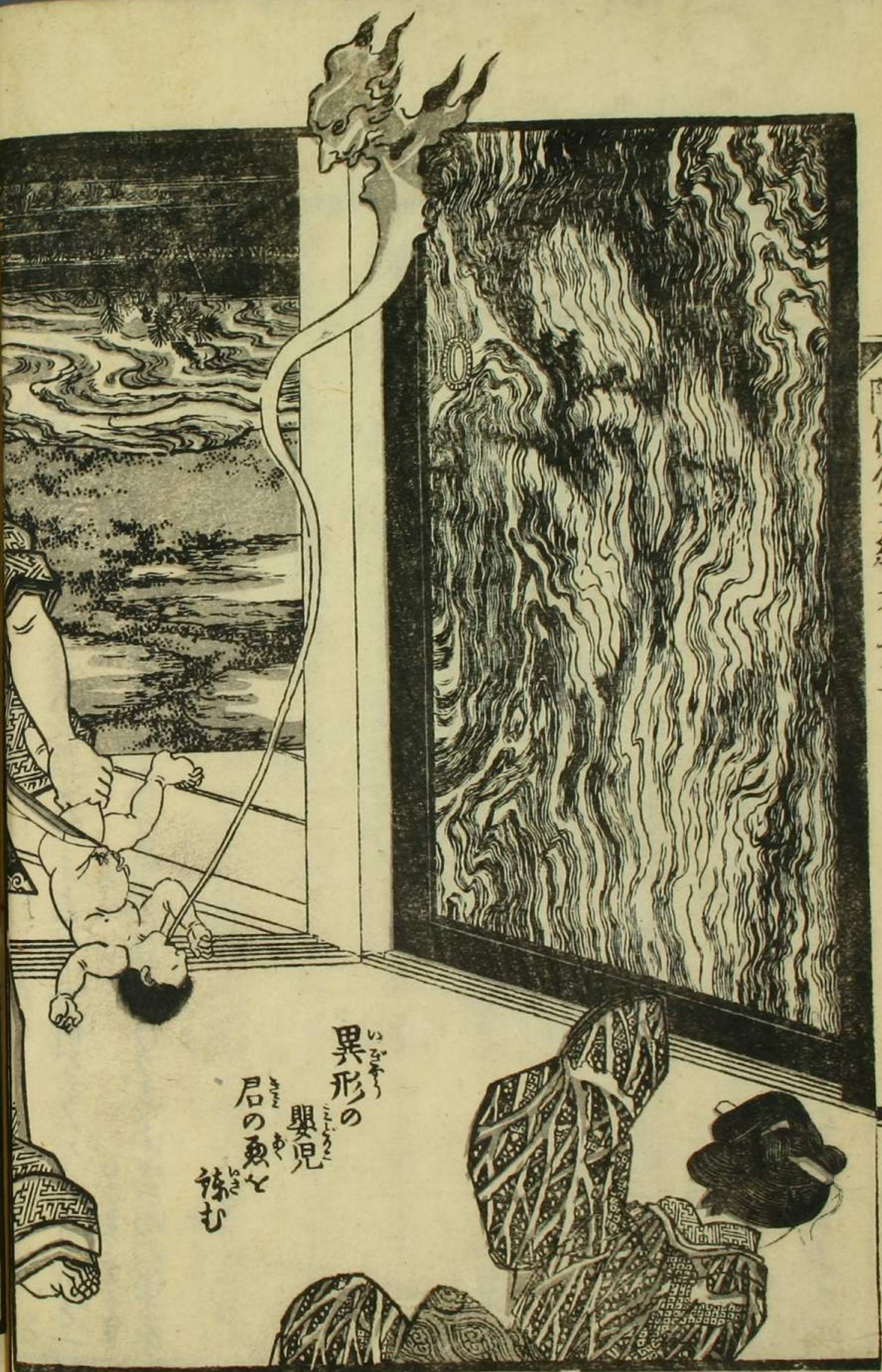
運り。眼をおはたとぞえ寐れば、愛おはれはして、怒とのねと、言ふも、まゝひいひ、
 らうと、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、
 らうと、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、とて、
 あせ、め、さむ、あつ、うい、うい、うい、うい、うい、うい、
 汗、眼の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 口外、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 余の郷、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 告、依、農、民、の、離、散、と、領、地、強、動、の、ま、本、の、忠、義、の、好、氏、ま、吾、が、不、為、因、て、渠、
 と、箇、様、の、極、刑、お、處、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 所、へ、狀、と、捧、し、の、ま、く、好、民、が、倭、寇、と、陳、謝、わ、く、將、軍、家、お、も、勿、れ、恩、免、の、
 半、追、従、の、詞、と、報、へ、ま、は、の、の、く、群、盜、の、降、死、せ、る、ま、の、い、ま、は、こ、お、於、て、正、光、の、金、

領地靜隘あり。あうーと思ひたる二個と篤く勞ひて終る。指料の刀を賜
 り。その功を賞せ給ふ。二個のふとて推戴して然るに斯波家へ使事奉
 り。未だ程不附と云ふ由と令せしむ。然るに正光の程より心地剛なるに
 是れを。其の勝ありけとて今日二個が敗者ありとて。廣るにありとて
 兎不かく渾身の恨まうけとて。不夷殿へ入り侍女等不足とて。採りて妻
 女。忽然と頭の上にて枕を度の下あり。い光こそ不眠をつけ。寂然ぬ女何れと
 時と突て死すまじ。かの女の元示とてうち笑ひて膝を迫め。妻の元井まき
 渾家とて。運回局の名代とて三使の下向不推の恩と被る。人びその時
 云さん。為るありて。い光の聲をいとおぼし。い光は。憎とて匹敵せ。処動を



却説阿佐舎の郷中へ。目と小難散の者多く。まゝかの群盗まゝく死せしむ。
 後めり良民と害に因て。知縣若く飛回。下月小令。ま役で廻て。こまを流し。
 と敬けり。まど難散の者の多けり。ま役小廻る人。人寡く。豫けの雀。知縣
 個が。主君への由云上。不日小人數を。下向。下の約定あり。まその人。救今日。
 まる。相や来る。と目と小候と。大早の雲霓を待たぬ。然れども。彼三個の
 かくいひ遁せざるのこゝろ。そのこゝろ。形も。出心。程の。些少の。草賊。互に。發
 かす。今。大方。他。死入。旗り。領地の。靜謐。ある。じ。ある。懸。木。ひ。出。て。討。て。殺。す。
 差。ま。え。より。ま。さ。る。小。勝。と。ま。り。と。と。底。病。小。も。思。ひ。さ。ま。ん。い。ま。る。べ。推。も。知。係。の。
 あ。ら。い。左。左。ま。る。こ。ひ。や。ど。不。隠。表。その。身。小。迫。ま。ま。稀。ある。死。と。さ。遠。す。因。
 て。知。縣。の。候。小。の。甲。斐。ある。ま。や。此。頃。の。群。盗。門。知。縣。が。陣。屋。の。門。外。ま。ま。押。さ。す。

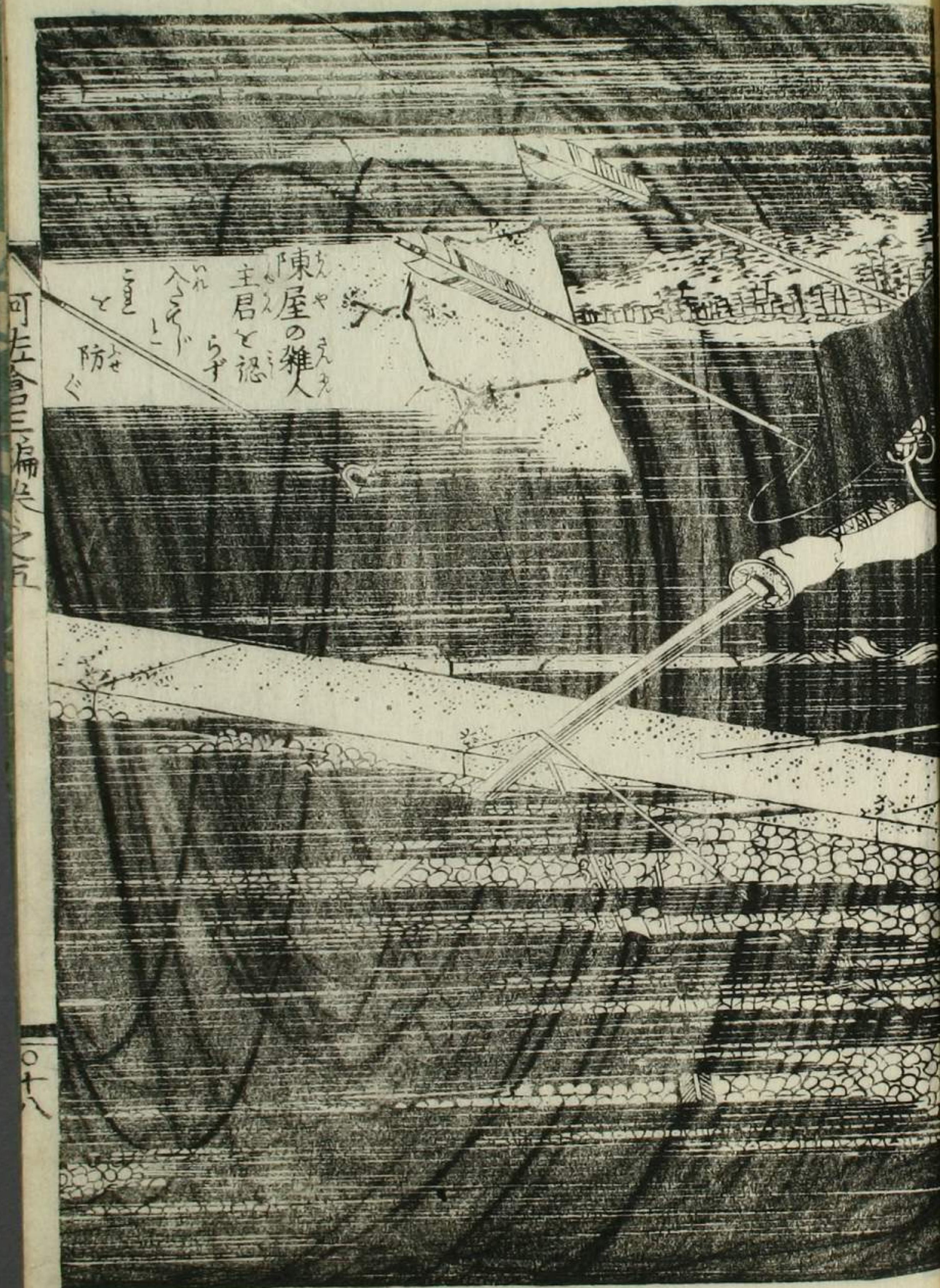
程あるまじき旨を注進をて援ひの人救へ頼みむい逃拂はんがあらざるべしと一
封の書翰を認め歩平兩人お前へ急ぎに送る。路へ登りけり。あふ宝町内軍家
あふ先以甲斐の領内ある。近江阿佐倉の花井茂吾訴へ状を捧げ下賤の身
とて上にて犯すの咎あるまじきまね。領主へ渡しめども。渠一命を捨て款訴
るす條。全く深き故とてあやめ。斯頃仁木音川など。長令を稟てその虚実を
探す。あふ領主なる甲斐家の非なり。と律明白し。頭をさけまじきまね。身評
定衆不在る。家政整へど。猶援ふ及ぶ。甚し不興とあて。閉門するべし
由嚴令ある。ふ光義さる。あふの。今更陳ずる。云葉もく。門で塞ぎ。之恨に在
る。阿佐倉より。の歩平。兩人来り。急要とて。云ふ。あふ。その夜。候。實に。因に
程。あふ。書翰を。認め。あふ。此。之。生。情。の。順。閉。門。あり。人。救。へ。出。け。と。協。の。む。あ。何



異形の
 嬰兒
 君の
 妹

答ふて千回悔とも跡へ返らば此所阿依念の農民們離散する老半に死
その虚不乗じて群盜の蜂起するや、嘆及べ刀松不もあまのあまのたふし
只一途不思ふことて彼處へ一跡弛ゆる不敷ひるやと吾のあまのたふし
のいふありて夜蔭不願地へ就ゆるに縁叛の活名も雪ぐ不ようく滅亡の
期預不至まじ。嗚呼天あるる命あるる性昔と思へ堅固の館不存
る時氏君と云祈不亡一のひる。又君の隱患も今いふ不迫する人
と猶校園歎息傲し在下も是より一阿依念へ逐逐来らる筋不よう
肉分の計ひもあまのたふし。と寒とて坐とて。従者と促りて喘
北へ飯りければ春の夜の明安くと東雲の白む頃とぞるり不る。と不
甲賀の光の官吏們が改へる。農民離散群盜蜂起。とまじる。とあまの
たふし

る。如何とほめんや。と妻時沉吟、あまの物狂り折るまじ。と自分言ふ若
ど。更不前後も顧み不る。と二更不近き頃裏にう地中。夜夜絶不る。と
時不のびてまじ。智川の流不着のひ。と件の川下に堰番水渺とほ。と舟不
渡下が。と光ら不馬と往め妻時啞噤て在る。と川へ元流行之。とま
堰番。と舟不と傲し。と由光頃。と縣門。と何程の。とあまのたふし。と
後不馬とらちへまじ。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。と
けま。と心中。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。と
と路の近。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。と
と。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。と
の。と一。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。とあまのたふし。と



可左衛門三郎

陳屋の主人
主君と認
入る
て
防

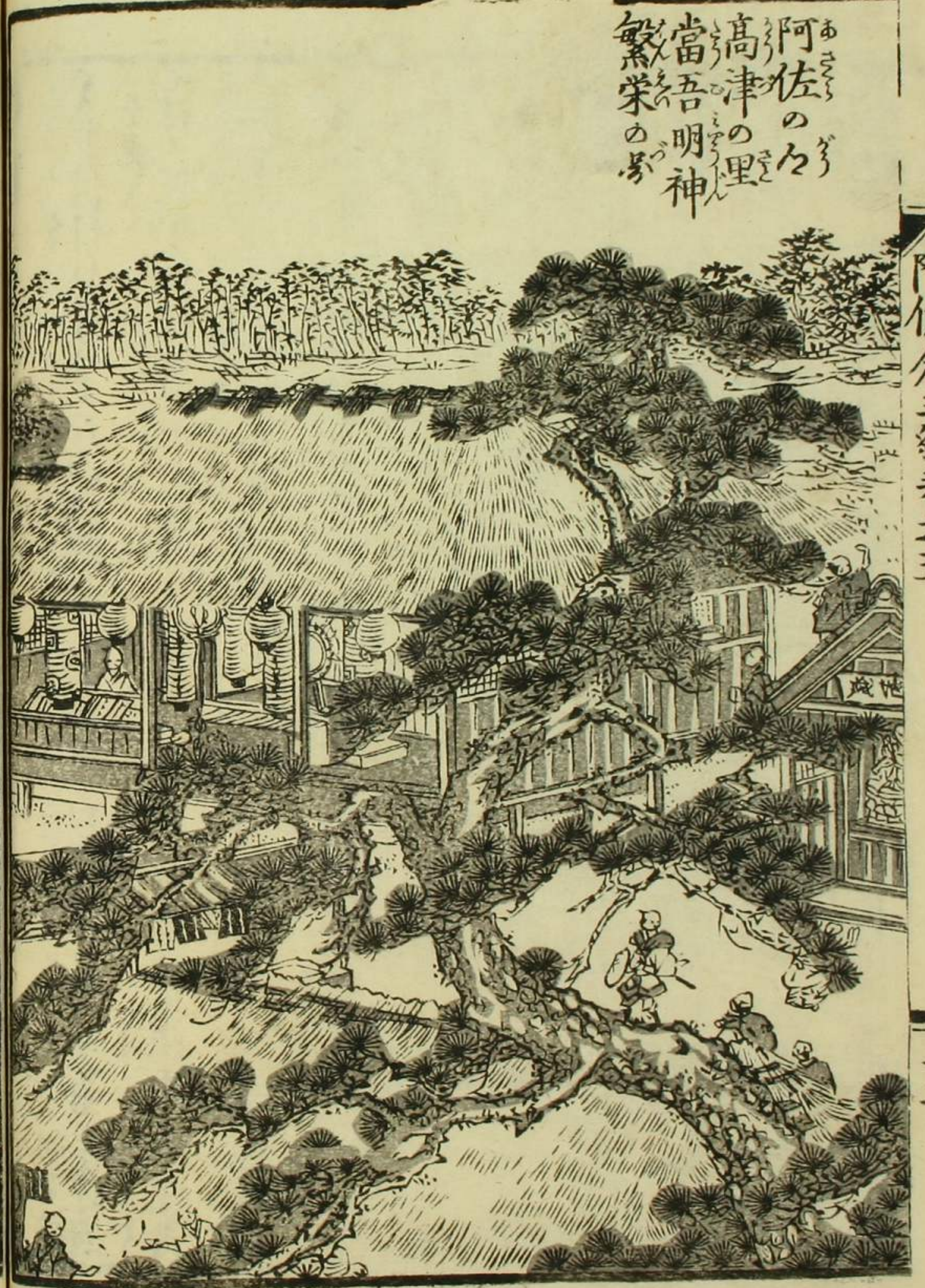
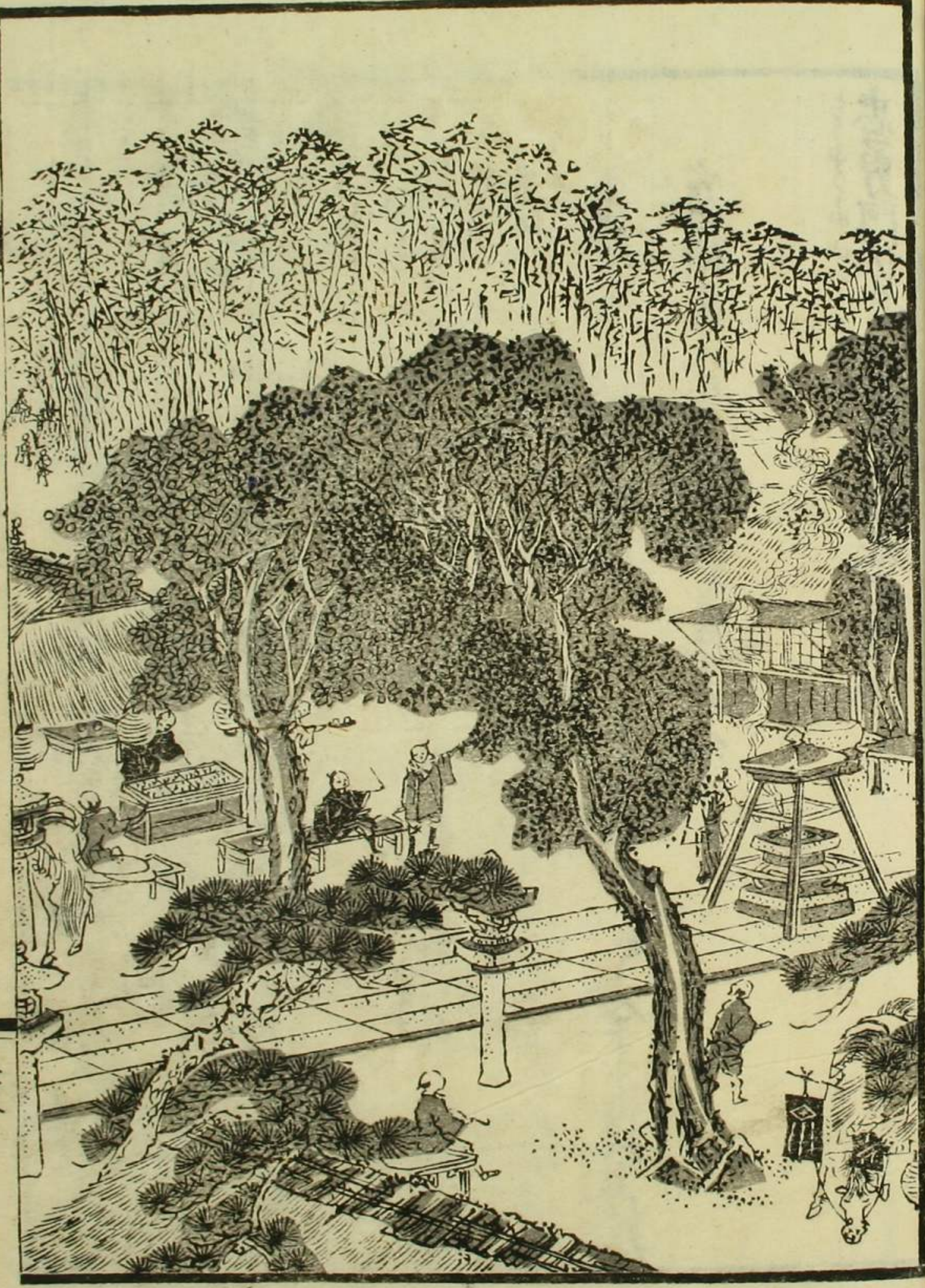


阿佐

正光

阿佐の里
高津の里
當吾明神
繁栄の家

阿佐倉三組巻之五



あると一時的耽樂を慕ひ五慾不況と善と廢し汚れを名を子我不修
嗚呼或るの甚きる己の才拙るの古きふくみ跡けさべい理を推
童蒙を辱くふれと松とさるるの筒ふくみは是と述りて焉と後者人
宜る用捨あふ本懐といふこと

因ふりて吾々を疎究めて定るることあり。今現ある怨の初を
建るも半歴何時の以るけん但刑罪の後或人葬ま石塔一基のま
るい徳満院涼風道閑居士と誌しと現る人予不修れは
古の僻ある人自身索結て識であふ

忠勇阿佐倉日記第三編卷之五大尾

清願 南原先生編選
増訂 録 辭 全四冊
日本安藤龍淵先生増字

明清 高久露厓先生原摹
名家 中箱畫譜 白紙摺 帙入四冊
矢野西洲先生著

梅陵井澤先生著
新訂 漢畫指南
山水之部二卷 人物花鳥之部二卷
四君子之部四卷 画法論 二卷

岡田良策先生編輯
近世 名婦百人撰
伊藤靜齋先生圖画
此書は永年より流行する今月にはありてはるる名婦百人を
の婦人二百名の物語を果てしなくお尋ねと編りて又その
加へてその物語の二巻を附して名婦百人の物語を
名婦百人の物語を果てしなくお尋ねと編りて又その
加へてその物語の二巻を附して名婦百人の物語を

孝貞 岡田霞先生編輯
近世名婦傳

此編は永く以来婦女子の歴史を記し、その名媛淑女の言行を傳へ、世に範を示すものなり。又、その名媛淑女の言行を傳へ、世に範を示すものなり。又、その名媛淑女の言行を傳へ、世に範を示すものなり。

大岡 元岡維則先生編輯
哇藏根接柱

此編は、元岡維則先生の編輯。哇藏根接柱、全十冊、近刻。此編は、元岡維則先生の編輯。哇藏根接柱、全十冊、近刻。

春風日記
松村春輔大人著

此編は、松村春輔大人の著。春風日記、四編出版、五編近刻、二書房合版。

大岡 元岡維則先生著
村井長菴調合机

此編は、元岡維則先生の著。村井長菴調合机、全廿卷、近刻。此編は、元岡維則先生の著。村井長菴調合机、全廿卷、近刻。

書肆 浅草三好町
七番地 聚榮堂大川錠吉藏版

松亭金水作
忠勇阿佐倉日記

此編は、松亭金水の作。忠勇阿佐倉日記、全部十五卷、近刻。此編は、松亭金水の作。忠勇阿佐倉日記、全部十五卷、近刻。

芳薫 松亭金水作
高木通實傳

此編は、松亭金水の作。高木通實傳、全部二編、近刻。此編は、松亭金水の作。高木通實傳、全部二編、近刻。

妙竹 梅亭金鷲藏作
七偏人

此編は、梅亭金鷲藏の作。七偏人、全部拾五卷、近刻。此編は、梅亭金鷲藏の作。七偏人、全部拾五卷、近刻。

明治十六年二月九日求版御届

書肆

東京府平民

大川錠吉

浅草區浅草三好町
七番地

大坂書肆

大坂本町四丁目

岡島真七

芝三島町

山中市兵衛

浅草廣小路

吉田久兵衛

横山町四丁目

辻岡文助

日本橋
通三丁目

小林鉄次郎

弥生門町

武田傳右衛門

浅草新福井町
五番地

高梨彌三郎

同三好町
七番地

大川錠吉

東京書肆

